



—今日は鈴木先生にスタジオにお越しいただいて、「新型コロナウイルスによる休校の子ども達への影響」の話題で話を進めていきたいと思えます。六月に入って学校がついにスタートしました。少しずつ日常に戻ってきているわけですが、一方で学校に行きたくないと言っている子ども達が増えているという話を聞きます。

そうですね、やっぱり今までずっと家にいて、それも冬休みや夏休みと違って外に行くことができなくて、急に学校に行くことになったので、体も慣れていなくて疲れます。学校に行きたがらずに泣いているという話もよく聞きますね。

—先ほど先生がおっしゃったように通常の休み明けでさえ、学校に行くのが難しいこともあるのに、今回のお休みはそういうわけじゃなかったですから、例えばおじいちゃんやおばあちゃんちに休みを利用して行くということができなくて、ずっと家にいなくてはいけなかったですから。

いつから学校に行けるのかも定まらないと、状況としては仕方がないわけですけど、これは子どもたちにとっても親御さんにとっても、なかなかどこに照準を合わせればいいのかかわからないのは難しいですよ。

そうですね、休校になって子どもも最初は喜んでいたと思うんですけど、そのうちだんだん慣れてきてだれてきて、友達にも会えずつまらなくなってきたり、親も不安で勉強が遅れるんじゃないかと、イライラして家庭の雰囲気も悪くなったりしました。

—鈴木先生が始められているオンラインサロンはどのようなものですか。

ZOOMを使ったものなんですけど、よく子育て広場という保護者が子どもを連れて集まって話したりとかあるんですけど、このコロナで対面が集まるのができないので、ZOOMでみなさんというんな話をしようということから始めました。ただ話をするのではなくて子育てプログラムをやっているのでも、少し学びもあるような、悩みを解決できるようなエッセンスも入れながら、みんなでテーマを決めて話し合ったりするようなのを、第一土曜日の午後に行っています。

—そうなんですか、では今月も第一土曜日に実施されたんですね。実際、子育てプログラムもされているということですが、参加されているご家族の方々から、「うちの子、学校に行くのを嫌がっているんです」とか、「学校が始まってから少し元気がないんです」とか、そういう話って聞かえてきたりしますか？

そうですね、幼稚園生から高校生など大きい子までいろんな保護者の方のお話を聞く

RNC 西日本放送ラジオ番組

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2020年6月16日 13時27分～13時47分

んですけど、子どもが最初学校に行って嬉しいんだけど、やっぱり疲れちゃったりとか、前できていた生活習慣ができないので、最初が肝心だと親が強く厳しく指導しちゃったりすると、子どもも疲れて嫌なのじゃないかって、どうしようもないくらいな状況があるよ。

—ベロの家庭でもありそうな風景ですね、親子間の衝突。「行きたくないよ、ママ〜」って子どもが言うよ、「何言ってるの、さっさとこきゃー」って。

そういうのもあるし、帰ってきたら、手を洗って着替えて宿題してとか、以前にできていたの「ベロ、三か月でだれてしまって、できていたものができなくなると、親も焦って最初が肝心だから」といって、お尻をたたいてやるよ。そのかわる子どももさっさと受け入れて、「もっかいよー」「となってけんかしちゃったり。

—遅れた分を取り戻そうと親御さんはより厳しくなるのでしょ。ベロですか、例えば小学校や中学校に上がったばかりの一年生のお子さんとか、例えば二年生から三年生に学年が上がっただけの在學生では、学校に入学したばかりの子たちの方が大きな壁がありそうに思うのですが、その辺りは手ごたえはどうですか？

特に幼稚園から小学校だとランドセルも買って、小学校は幼稚園と全然違ってきちんと座っていないといけないし、話も聞かないといけないしで覚悟がいるわけですね。小学校に入ると言う覚悟で行ったのにそれがピタッとなくなったので、適応するのがすごく難しいっていうのがありますよね。

—まさに肩透かしっていう感じのスタートになりましたよね。

盛り上がっていた気持ちがいゆんとなってしまうと、うまくスタートが切れない。

—まさに我が子が小学一年生なんですけど、学校も授業をこなしていかないといけないので、月曜日だけは違うんですが火曜日から金曜日までが四十分授業の六時間なんですよ。一年生から。

小学校一年生にはハードすぎませんか？でもしなくちゃいけない。

そうですね。それで先生が対応してくださっているようなんですけど。給食の時間ってみんなが楽しくしゃべりながら過ごせる楽しい時間だったのに、この新型コロナウイルスの影響でみんな自分の席に座って前を向いて食べるっていう。仕方ないんですけど、給食を楽しみに学校に行っていた方も私を含めていたと思いますが、そういう楽しい時間も感じる事ができなくなると、学校行って先生に言われてずっと前を向いて座ってはいけなくて。いろんなルールがあるので、それに慣れるのが大変なんだろうなって見えていて思います。

急に生活を変えるのは大人だったらできるかもしれませんが、子どもにとって体力面でも精神面でもす

—でも、本当に親の覚悟って大事だと思ってすごく思います。一方で五月末から六月の一週目までは分散登校でした。これでいい影響があったというお話も聞きました。

—そうですね。今までちょっと学校に行きづらかった子、教室に入りづらかった子がずっと教室に入りやすくなったとは聞くんですよ。

—それちょっとですが…

—普通だったら仲良しグループで楽しそうに遊んでいるので、なかなか入り込めないんだけど、分散登校だともともと仲良しグループがなかったりとか、給食を仲良くおしゃべりして食べるのではないので、すくすくやすいんですよ。一人でいてもみんな一人だから。

—疎外感を感じていた子が、みんなが距離を取っているので自然にそこに違和感を持たずに、みんな一緒にだなんて感じていけるんですよ。

—距離感な〜ね。そういうのをあつちの学校から聞いたりしますね。

—新型コロナウイルスの影響って悪いことばかりじゃなくて、いい面もあるんですよ。

—そういう子たちのためによかったと思うし、今まではお父さんが忙しくて家族で何かする時間がなかったけど、今回のことで初めて家で家族で過ごした、とかいい面もあったりしたみたいですね。

—この大きな困難を乗り越えて、一緒に過ごしたというのは、この記憶というのは将来ものすごくプラスになると思いますが、今は親御さんも含めて大変だとは思いますが。

—学校に行きたくないとか、最近体調が芳しくないとか、見ていてどうしてかわからないといった悩みを持っていらっしゃる方がいると思うんですよ。学校に行きづらいところの悩みを相談できる場所はありますか？

—いろいろあるんですけど、私、最近学校関係者の方と一緒に仕事をすることがあるんですけど、スクール・ソーシャルワーカーとかスクールカウンセラーの方とか、一生懸命に子どものごときをよ〜く見てて普段の生活とかもよくわかるので、その方たちに相談されるのはいいんじゃないかと思えます。あと、発達障害を持っていらっしゃる方だとペアレントメンターかがわさんっていうのがあります。発達障害の子どもをもつ保護者の方々がしていて、先輩の方々が相談に乗ってくれるんですけど、それがいいなと思っています。また、私も三木町の白山文化センターで毎週火曜日〜三時に無料で子育て相談を受け付けています。

—ちやべりの時間にならねえぞや。

そうです。そこで先週お話ししたオンラインサロンもあの辺、新しいオンラインお話しもいろいろあります。ぜひ。

— スクールカウンセラーとしての学校での常駐しているものなんでしょうか？

そうです。毎日行くわけではなっていますが、決まった日に必ず小学校中学校に行きますので、そういう方たちには話しかかれるのも結構かと思えます。

— そうですね、悩みをためるよりは早めに早め早めに親御さんたちも相談する、対応をするのがいいのかなと思えます。

親御さんとも子どもともめ、今感じている、困っている方が多いと思うところ、気軽にまず相談してみるのが楽かなんじゃないかなという感じがしています。

でも、何を決めるのも、子どもにとって何がベストなのかという視点をいつも持つておくというのが大事なところだと思います。子どもにとって何がいいのか、この子は何を求めているのかという視点でみる、自分で察知を押しつけないように、それをカウンセラーたちがサポートしていただければかなと思います。

— そうですね、焦ったり、困ったりするのを周りを見がちですが、まずは自分の子どもをちゃんと見てあげようというのでは。

そのお子さんが安心してできる場所が家庭だと考えた方がいい。

今日もいっぱい勉強になりました。先月おっしゃっていたように「ご飯だよ、早く来なさい」というのを目を見ないで言ってくるんじゃない、今夜かと言っているように思っています。

ちっこいままごと？

— は、ご飯をへっつけてあげようみたいな(笑)。「ね、毎日継続していて、もう遊びたいになっちゃいます。」「ご飯言っているね」「ってじっと額をへっつけて見詰めながら言っている、ちゃんと来るようになったって。(笑)。「しっすっ階段を登っていきたくて思います。」

素晴らしそうですね！

— また来月もよろしくお願いします。